

「将来像」と 「主体性を引き出す3つの観点」

将来像とは…

「将来像」とは、本校の「キャリア教育の視点」です。

本人及び保護者の願いを基に児童生徒の自己実現に向けて、知的障害のある児童生徒に対する、一人一人に応じた、一貫性・系統性のあるキャリア教育の在り方を考えた研究の成果です。

児童生徒が卒業後に過ごす場は、主に「家庭」「職場」「余暇の場」の3か所です。本人及び保護者の願いを基に児童生徒の3つの場における将来像を作成することで、児童生徒の自己実現にむかう取り組みを、一人一人に応じて、一貫性・系統性をもって行うことができると考えています。

【将来像の定義】

将来像は、自己実現をしている生活を想定した、児童生徒の23～25歳時の姿。

小学部段階では、働く生活を開始するまでに長い年月があるため、「将来の生活を描き始める時期」と位置付け、将来像の「設定」に焦点を当てます。次に、中学部段階では、小・中・高の12年間の学校生活が後半に入る段階であることを踏まえ、「将来の生活について考えを深めていく時期」と位置付け、将来像の「具体化」をめざして実践を行います。高等部段階では、学校生活からの卒業と働く生活の始まりが近づいている段階であり、「卒業後の生活の在り方を考え、決定していく時期」であることから、将来像の「現実化」をめざした実践を行います。

この将来像の取り組みを軸として、各学部の生活年齢による時期の特徴を押さえ、学部間における系統性のある取り組みを目指しています。

「家庭」「職場」「余暇の場」の3つの場

本校の将来像は、「児童生徒23～25歳時に、自分の力を最大限発揮して、生き生きと生活している様子」を生活の3つの場から考えます。

表1 中学部の将来像の例

子供の将来像		将来像	
		中学部 〇年 氏名 〇〇〇〇	
将来像(自己実現をしている生活を想定した、本人の23～25歳時の姿)			
家庭の場における将来像	職場における将来像	余暇の場に関する将来像	
<ul style="list-style-type: none"> ・買い物や留守番、洗濯を一人で行うことができ、家事の手伝いをしている。 ・簡単な料理をすることができていて、料理をすることやその料理を振舞うことを楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活面が自立している。 ・人と関わるのが好きで、自分から働きかけ、職場の同僚と友好的な関係を築いている。 ・自分で気づいて行動していて、時間を意識して頼まれた仕事に最後まで取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・優しく友人を気遣うことができている、友人を誘って映画を見に行ったりするなど、人と活動することを楽しんでいる。 ・計画を立てて友人と旅行に行くことがある。 ・スポーツ教室に通っている。 ・マラソン、バスケットボールなどの運動サークルに入って週末に活動している。 	

将来像の成果

将来像や、将来像作成の観点から実践を導いた取組から、4つの成果が得られました。

(1) 一貫性のあるキャリア教育のモデル

将来像の定義や考え方を基に「自分の力を最大限発揮し、生き生きと生活している姿」(自己実現)を見据え、小中高のどの児童生徒にも、一貫して将来像を軸とした取り組みを行うことができます。

表2 各学部の将来像作成の観点




	将来像の位置付け	将来像作成の観点
小学部	<p>将来像の設定</p> <p>高等部を卒業し、働く生活を開始するまでに長い年月があることを踏まえ、「将来の生活を描き始める時期」と位置付け、児童が「よさ」を発揮し、活躍した場面を集め、将来像の「設定」を行う。</p>	 <p>○将来につなげたいよさ</p>
	<p>将来像の具体化</p> <p>小・中・高の12年間の学校生活が後半に入る段階であることを踏まえ、「将来の生活について考えを深めていく時期」と位置付け、将来像の「具体化」をめざして実践を行う。</p>	 <p>○行動の基となる能力 ○支援の方法と程度</p>
高等部	<p>将来像の現実化</p> <p>学校生活からの卒業と働く生活の始まりが近づいている段階であることを踏まえ、「卒業後の生活の在り方を考え、決定していく時期」と位置付け、将来像の「現実化」をめざして実践を行う。</p>	<p>○場面 ○かかわり ○実態 ○金銭収支 ○社会状況</p> 



図1 一貫性のあるキャリア教育のモデル

(2) 系統性のあるキャリア教育のモデル

将来像に基づく実践の結果、将来像作成の観点について、図3のような系統性が見られました。将来像作成の観点は、生活年齢に応じた段階にそって、整理・発展していくと考えています。

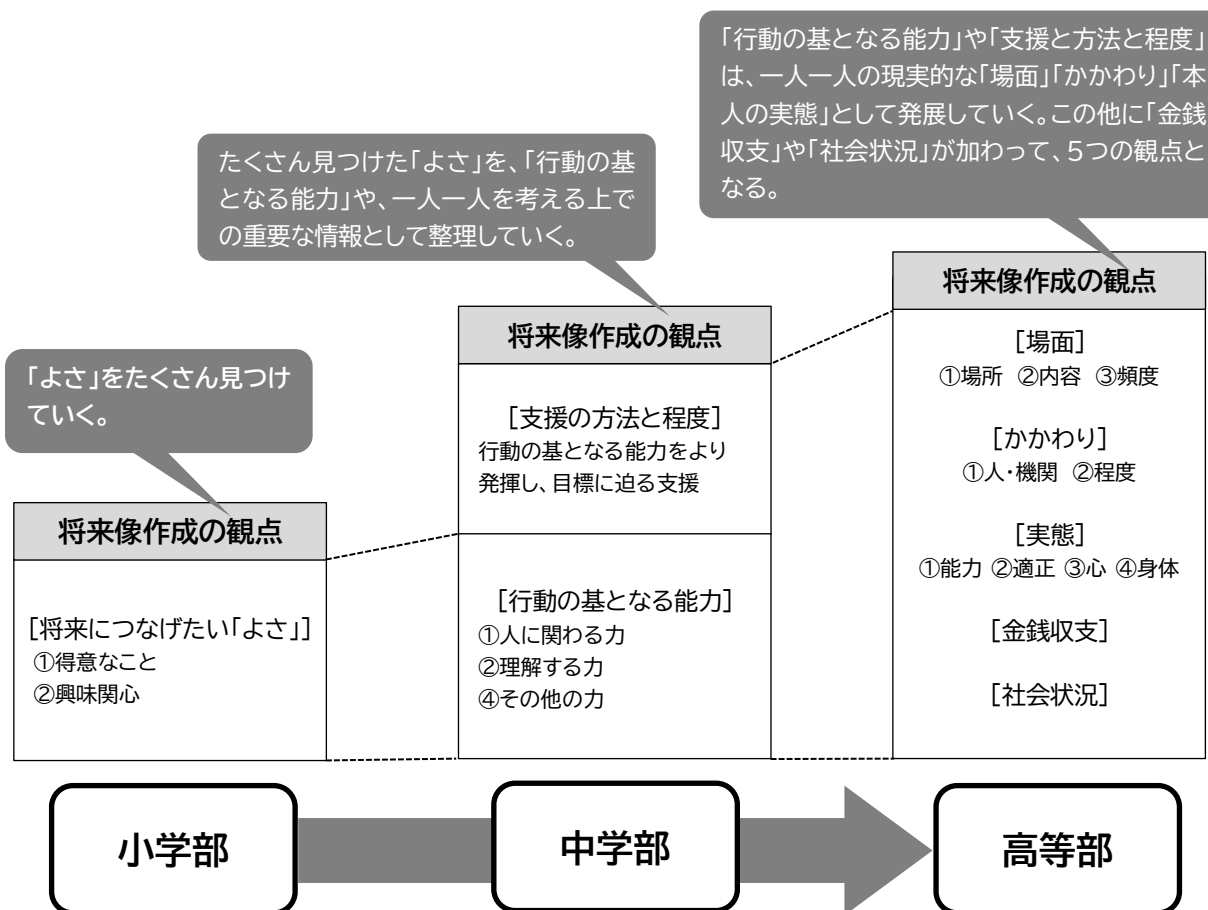


図2 系統性のあるキャリア教育のモデル

(3) 将来像を軸とした共通の視点による共通理解の深まり

将来像を軸にした取り組みの中で、将来を見据えた共通の視点で児童生徒を共通理解し、共通支援にむかう仕組みを構築することができます。

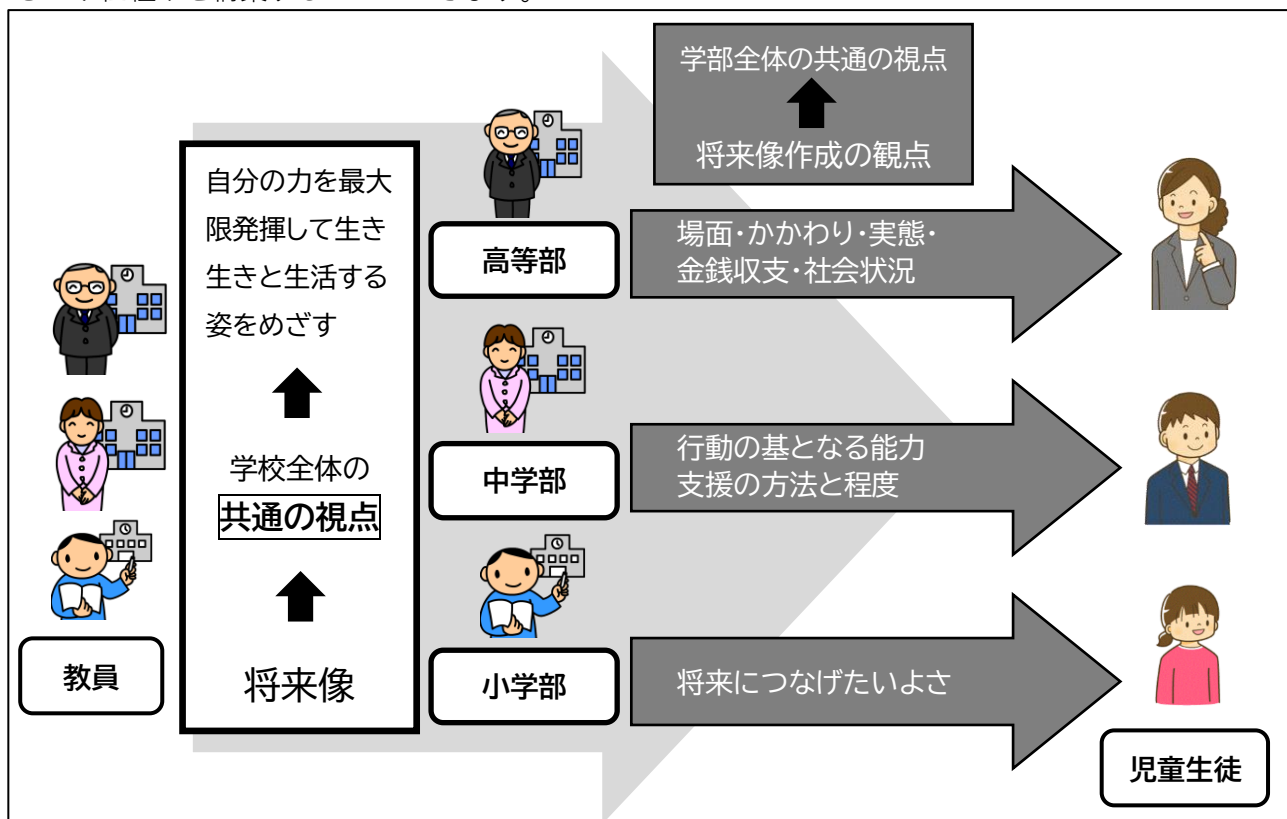


図3 将来像が軸となる共通の視点による共通理解の深まり

(4) 授業における「生き生きとした姿」の重要性の確認

将来像作成の観点からは、各学部の「生き生きとした姿」を目指した実践や、実際の授業における生き生きとした姿から導き出されました。このことから、自己実現に向かうために、今を「生き生き」と過ごすことが将来の「生き生き」へとつながることの大切さを確認することができました。

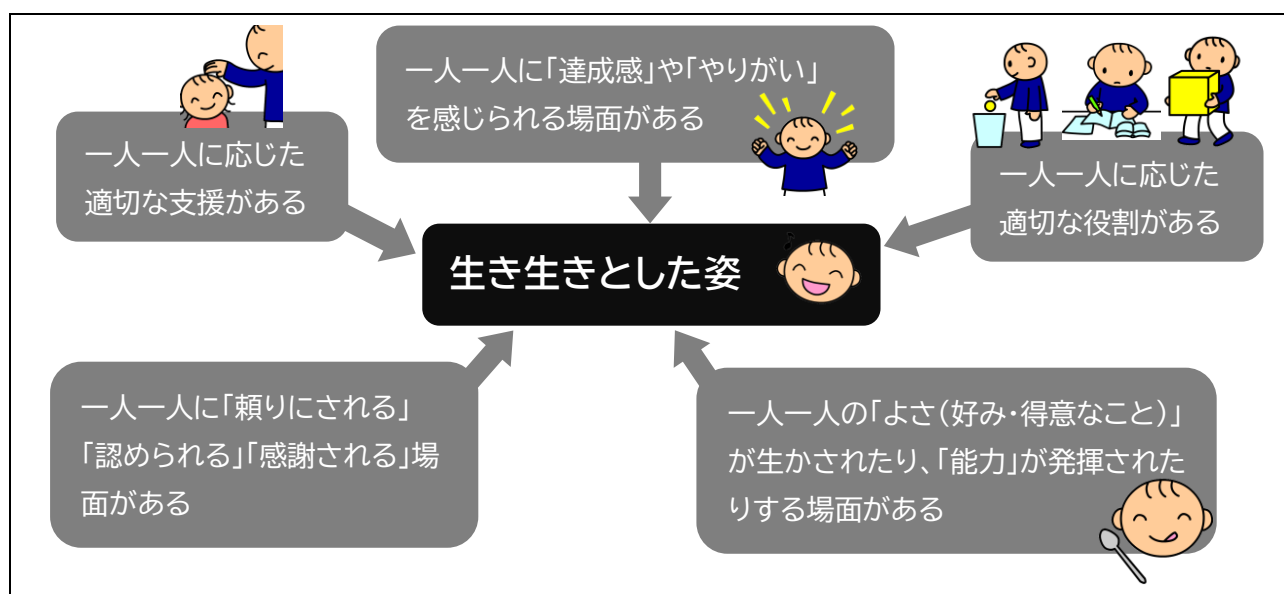


図4 授業における「生き生きとした姿」につながる要素

主体性を引き出す3つの観点とは…

「動機付け」「理解の促進」「環境設定」

将来の生き生きにつながる、現在の生き生きを育む、「授業改善の観点」です。

「将来像」というキャリア教育の視点をもとに、「将来の『生き生き』」につながる「現在の『生き生き』」を「主体性の発揮」と捉え、その主体性を引き出す授業改善の観点として、「動機付け」「理解の促進」「環境設定」の3点が重要だと考えています。環境を整えることで、理解が促され、また理解が進むことで環境をより捉えやすくなります。「動機付け」を行い、活動・学習の中で「理解の促進」と「環境設定」を工夫することで、さらに「動機付け」が高まり、主体性の発揮へとつながると考えました。

学校研究として、平成25年度から27年度にかけて、この「主体性を引き出す3つの観点」をもとに授業改善に取り組みました。その結果として、課題や活動に取り組む際の児童生徒への支援や指導に対する理解が深まり、「主体性の発揮」という視点から授業づくりを行っています。

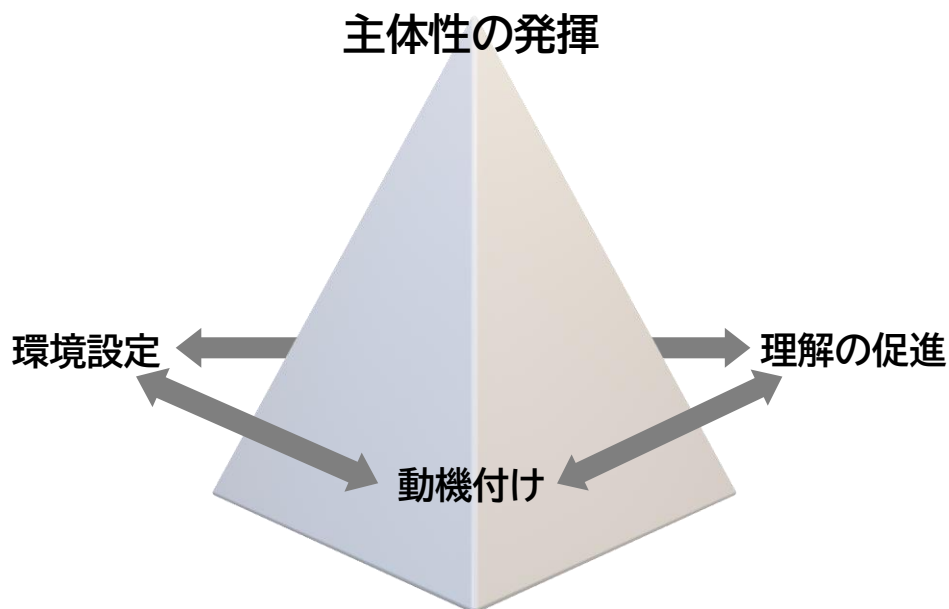


図5 主体性を引き出す授業改善の3つの観点